令和元年８月９日

豊田市議会議長　杉浦　弘髙　様

教育社会委員会
委員長　浅井　保孝　㊞

委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第３７条第１項の規定により提出します。

記

１　日　　程　　令和元年７月３０日（火）～８月１日（木）

２　派 遣 先　　３０日（火）…栃木県那須塩原市／
及び内容　　子ども・子育て未来プラン
３１日（水）…新潟県新潟市／
地域と学校パートナーシップ事業
１日（木）…埼玉県／熊谷市
スポーツ振興

３　派遣委員　　委 員 長　浅井　保孝
副委員長　田代　　研
委　　員　都築　繁雄　　太田　博康　　根本　美春
羽根田利明　　吉野　英国　　中尾　俊和
石川　嘉仁

４　報 告 書　　視察報告書のとおり

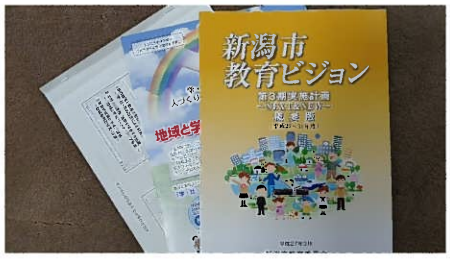
５　そ の 他　　随 行 者／太田　吉朗、近藤　みさき

視察報告書【１】

委員会名	教育社会委員会	委員名	浅井保孝
視察日時	令和元年７月３０日（火）午後１時４５分～午後３時１５分		
視察先・概要	栃木県那須塩原市　人口：115,885 人　面積：592.74ｋ㎡ ※人口はR1.6.1 現在		
視察内容	子ども・子育て未来プラン		
選定理由	那須塩原市子ども・子育て未来プランは、幼児期の教育・保育の総合的な提供や、地域の子ども・子育て支援事業の充実を図るため策定されている。事業をより充実させるため、平成 29 年度に見直しを行っており、例えば放課後児童健全育成事業においては、当初の減少見込みから量の見込み及び確保方策を修正設定している。また、県内で唯一放課後児童クラブ地域連絡協議会を設置している。見直し後、本市同様プランの改定を進めており、参考になると考えたため。		
豊田市の現状と課題	現行の第２次子ども総合計画は令和元年度末をもって計画期間が終了し、令和２年度からの５か年計画である第３次子ども総合計画を策定しているところである。 子どもの健やかな育ちと安心して子育てができるまちの実現を目指し、社会背景や子ども子育て支援新制度、法令改正等を踏まえるとともに、現行計画を評価し、放課後児童クラブの需要への対応等、課題に対応した計画策定が求められる。		
視察概要	・計画の内容 基本理念に「親と子が育ちあい　健やかにふれあえるまち　なすしおばら」を掲げ、「子育てを地域で支える意識づくり」をはじめ７つの基本施策に 91 事業が展開されている。 基本的な視点は、「すべての子どもの人権を尊重する」、「すべての子どもと子育て家庭への支援」、「子育てにやさしい社会づくり」、「妊娠・出産・育児の切れ目ない支援」の４点である。 ・計画期間 平成 27 年度～平成 31 年度。平成 27 年に次世代育成支援行動計画と子ども・子育て支援事業計画の内容を一体的に策定。 ・評価 プランに位置づけられた全 91 事業について、毎年実施状況の評価を行っている。また、平成 29 年度には中間見直しが行われ、修正設定をしている。 ・平成 30 年度の実施状況（全 91 事業） Ａ（計画どおりの進捗）が 61 事業 Ｂ（目標に近く、概ね進捗）が 20 事業 Ｃ（目標には届かないが、進捗している）が７事業 Ｄ（停滞・事業の未実施）が３事業 ・ニーズ調査 次期プランに向け、子育て支援に係るニーズ調査を平成 30 年度に行っている。対象は未就学児保護者 2,000 人、小学生保護者 2,000 人の計 4,000 人。また、貧困の実態調査も行っている。		

	・放課後児童クラブ 小学校１年生から６年生まで受け入れている。令和元年度末において、公設クラブ数は 27 クラブ、公設・民設合計で 46 クラブとなる見込み。令和元年度に、公設クラブ３棟を整備予定であり、年度末における確保方策は公設・民設クラブ合計で 2,210 人となる見込み。（計画における平成 31 年度の目標は 1,876 人）民設も平成 30 年度から３クラブ増加し、19 クラブとなる。
評価と その理由	・計画に位置づけられた 91 事業のうち、81 事業が予定どおり進んでおり、全事業の評価を毎年行っていることは評価できる。毎年評価を行うことで、進める部分や見直す箇所が明確となり、市民のニーズに合った取組ができている。ＰＤＣＡを回しながら、市民目線での取組を行うことが重要である。 ・市民からニーズ調査を行って見直しを行っており、合わせて、貧困世帯に対しての実態調査等も行われている点は評価できる。計画を立てるだけではなく、見直しを行うにあたり、実態を把握していく必要がある。 ・放課後児童クラブの運営にあたり、地域連絡協議会を設置し、地域、学校など様々な意見を聞きながら子どもたちを育てている点は評価できる。関わる人が多くなることで、課題の解決や支援につながる。
本市に反映 できること	・多くの事業が計画に位置づけられているが、全項目の評価を毎年行い、また、５年間の計画の中で中間見直しを行っている点は、最新の市民ニーズに応えていくためにも、参考になる。 ・放課後児童クラブでは、公設だけではなく、民設を含め整備を進めるなど、ハード面の量の整備だけではない取組は、地域力を生かしながら今後本市が取り組んでいく中で参考になる。
その他 （意見・課題 など）	・今後、幼児教育・保育の無償化がスタートする中で、施設の受入れ枠が増えることが予想され、保育師の確保が課題とのことであった。本市においても、こういった点を押さえておくべきである。 ・那須塩原市牛乳等による地域活性化推進条例に基づき、牛乳で乾杯を行ったが、条例を定め、市の特産品をＰＲする点は参考になった。本市に視察に来られた方にも、例えば猿投のなしをお出しし、ＰＲすることもよいのではないか。生ものは出すのも大変な面があるため、なし・桃・柿の羊羹もある。

視察報告書【２】

委員会名	教育社会委員会	委員名	浅井保孝
視察日時	令和元年７月３１日（水）午後１時３０分～午後３時００分		
視察先･概要	新潟県新潟市　人口：790,181 人　面積：726.45ｋ㎡ ※人口は R1.7.1 現在		
視察内容	地域と学校パートナーシップ事業		
選定理由	新潟市では、学校が地域に開かれ、地域とともに歩むことができるように平成 19 年度から地域と学校パートナーシップ事業を行っている。本事業では、地域教育コーディネーターを学校に配置し、学校と社会教育施設や地域活動を結ぶネットワークを形成し、「学・社・民の融合による教育」を推進している。家庭・学校・地域の共働を推進する本市においても参考となると考えたため。		
豊田市の現状と課題	家庭・学校・地域が一体となって地域ぐるみで学び合う教育の推進が求められる中、本市においては、地域学校共働本部事業またコミュニティ・スクール事業を推進している。全小中学校への地域学校共働本部の設置拡大、全中学校区のコミュニティ・スクールの指定を進めるなか、地域コーディネーターをはじめ、人材の育成・支援などが課題である。		
視察概要	・新潟市教育ビジョンの策定 平成 16 年　検討開始 平成 17 年　基本構想策定 「学・社・民の融合による人づくり、学校づくり」 平成 18 年　教育ビジョン完成  ・学・社・民の融合による教育 「学」は学校、「社」は公民館や図書館などの社会教育施設、「民」は地域住民、家庭、地域の諸団体や企業。学・社・民のそれぞれが役割を果たし、一体となって教育活動を進め融合することで、大きな力を発揮できるという考え方のもと、「人づくり、地域づくり、学校づくり」を推進している。 ・地域と学校パートナーシップ事業の目的 新潟市の学校が、さらなる学校教育活動の充実を図るとともに、豊かなコミュニティづくりのため、地域に開かれ、地域と共に歩むことができるように、学校と社会教育施設、地域との様々な活動を結ぶネットワークづくりや協働事業等を推進し、学・社・民の融合による教育をすすめる。 ・パートナーシップ事業の４つの柱 1. 学校と社会教育施設、地域活動をむすぶネットワークづくり 2. 学校の教育活動・課外活動における地域人材の参画と協働 3. 学校における地域の学びの拠点づくり 4. 学校の教育活動の様子を地域へ発信 ・地域コーディネーター（新潟市非常勤職員）の職務 学校や地域団体、社会教育施設との連絡と調整 学校支援ボランティアの組織と整備 学校における地域の学びの拠点づくり その他、事業の推進に関すること（広報活動、研修参加など）		

	・各学校で学校支援活動、地域貢献活動、地域交流活動、学びの拠点づくりを実施 例：各地域教育コーディネーターより聞き取り 味方小学校：団体等に呼びかけ、おむすびクラブ運営協議会を設立 西内野小学校：学校支援ボランティアによる部活動支援補助等 日和山小学校：5 年生総合学習では「共に生きる」をテーマに地域福祉を考える
評価と その理由	・市の非常勤職員として地域教育コーディネーターを各学校に配置し、学校と社会教育施設や地域活動を結ぶネットワークを形成し、学・社・民の融合による教育を推進している。家庭や学校、地域が一体となって地域ぐるみで学び合う教育の推進ができ、子どもの学力の向上、社会性の育成、自己肯定感の醸成に寄与している点は評価できる。 ・国が進める教育基本法等の見直しよりも前に市として新潟市教育ビジョンの策定を行っており、平成 19 年度から国に先駆けて、地域と学校パートナーシップ事業を行っているところは評価できる。 ・コーディネーターの３名の方から説明を受けたが、学校、地域、子どもを元気にするという意欲が感じられ、活性化につながる点は評価できる。
本市に反映 できること	・行政が主導的に行っているため、コーディネーターの身分も保証されており、学校や地域側に安心感がある点は、ボランティア等の裾野を広げていくにあたり参考になる。 ・子どもたちに地域の課題を考えさせ、自分たちで解決をさせるように取り組んでおり、ふるさとや自分の地元を愛するための一つの方策として参考になる。 ・本事業を通じ、当初は地域で教えられていた子どもたちが最終的には教える立場にも回っていくという点は参考になる。
その他 （意見･課題 など）	・多くの地域がある中で、コーディネーターや地域ごとの温度差が出てくることが懸念される。 ・長年コーディネーターを続けている方もおり、学校の中で先生より長くいる方もいると思われる。学校側の声も聞く必要がある。 ・コーディネーターの配置はかなりの成果を上げていると思うが、豊田市において、どういう人材を集めてどのように子どもたちや地域を引っ張っていくのかが課題である。

視察報告書【３】

委員会名	教育社会委員会	委員名	浅井保孝
視察日時	令和元年８月１日（木）午前１０時００分～午前１１時３０分		
視察先･概要	埼玉県熊谷市　人口：197,907 人　面積：159.82ｋ㎡ ※人口は R1.7.1 現在		
視察内容	スポーツ振興		
選定理由	熊谷市では、「実践」「応援」「協力」を合言葉に、スポーツに熱中し、活力あるまちづくりを目指す「スポーツ熱中都市」を平成 18 年に宣言している。また、平成 23 年には熊谷市スポーツ振興まちづくり条例を制定し、スポーツを活用した活力あるまちづくりを推進している。スポーツボランティアの制度化などスポーツ参画の機会拡充も図っている。2019 年のラグビーワールドカップの開催都市でもあり、本市においても参考となると考えたため。		
豊田市の現状と課題	ラグビーワールドカップの開催を間近に控え、スポーツに親しむ市民の拡大の好機ととらえ、タグラグビー体験などラグビー関連を中心に、各種事業に取り組んでいる。大会後、レガシーとしての市民活動のすそ野の拡大を図るため、スポーツボランティアの拡充などが課題である。多くの市民が日常的にスポーツに親しみ、生涯を通じて健康に暮らす人が増える取組が求められる。		
視察概要	・ラグビータウン熊谷 平成 12 年から、全国高等学校選抜ラグビーフットボール選抜大会を開催 【熊谷市で行われている主な大会】 ジャパンラグビートップリーグ公式戦 東日本クラブ選手権大会 全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会 全国大学ラグビーフットボール選手権 関東大学リーグ戦　関東大学対抗戦 その他高校・中学・小学校（タグラグビー）等の各種大会 ・ラグビーワールドカップ 2019 開催に向けて、暑さ対策やユニバーサルデザインに配慮した駅前の改修、幹線道路整備などが行われている。また、県営の熊谷ラグビー場も改修が行われた。 ・2019 年 6 月の埼玉ラグビーフェスタにて、スクマム！クマガヤ宣言を行っており、熊谷駅などではスクマム！クマガヤの横断旗を掲げている。 ・ラグビー以外にも、駅伝大会・マラソン大会・高校女子サッカー大会などに取組んでいる。また、Ｊリーグ、ラグビートップリーグ、陸上競技（実業団、インカレ）等、年間を通じて開催されている。 ・熊谷市内の主なスポーツ施設 妻沼グライダー滑空場、熊谷市スポーツ・文化村「くまぴあ」(※)、熊谷さくら運動公園、県営熊谷ラグビー場（平成 30 年 10 月開設）など ※旧市立女子高校の施設を有効活用し、宿泊も可能な施設として平成 25 年全面オープン ・平成 16 年開催の第 59 回国民体育大会に合わせ熊谷スポーツ文化公園（陸上競技場、体育館、多目的屋内運動場）が整備された。		

	・スポーツを生かしたまちづくりの総合振興計画（平成 30 年 3 月）への位置づけ 総合計画のリーディング・プロジェクトとして、「スポーツツーリズム・観光振興の推進」が位置づけられ、「スポーツ・観光を通じて魅力をはっしんするまち」を掲げている。 ・スポーツを通じた地域の活性化を目指すスポーツコミッション設立に向けて設立協議会が設立されている。事業内容も検討されており、①スポーツ大会・イベント誘致活動　②スポーツ大会・イベントの運営支援　③スポーツ大会・イベントへの助成による支援とされている。 ・熊谷市スポーツボランティアバンクでは、イベント主催者の要請に応じ、登録している個人・団体をスポーツボランティアとして紹介している。
評価と その理由	・スポーツツーリズム・観光振興の推進のため、大規模大会の誘致のほかに熊谷さくら運動公園等、市の有するスポーツ施設を有効に活用し、スポーツ観戦と実践の両面から、交流人口の拡大を図ろうとしている。それを担う組織の早期立ち上げを目指している点が評価できる。 ・県の施設も含め、スポーツ施設が充実しており、様々なスポーツを通じて、市内外からの来場の機会がある。スポーツ・文化村くまぴあなどが有効利用されており、メリットが生かされている。
本市に反映 できること	・スポーツボランティアに関して、イベント等で活躍されたボランティアの方々を登録という形で蓄積しており、一過性で終わらない取組が参考になる。 ・スクマム！クマガヤプロジェクトを市民から提案やアイデアを募りながら取り組んでおり、行政、市民、企業が一体となって盛り上げている。スポーツに関する歴史や土台もあり、盛り上げ方が参考になる。
その他 （意見･課題 など）	・ラグビーワールドカップに関し、熊谷市は、スクマムという言葉を使い、都市宣言のようにして行うほど力を入れ、まちを挙げて取り組んでいる。豊田市も、開催 12 都市の中でも最初の予選の４試合は対戦カードがよい。また、土曜日、日曜日の開催であり、非常に日本時間にも合っている。この点は PR していくとよい。 ・スポーツツーリズムを進めようとすると、宿泊施設の充実が課題となる。宿泊施設が少ない中では、熊谷市のように学校の再利用はよいアイデアである。